

トレン(MCA)によるウサギの実験的肺癌—アミロイドーシス発生に及ぼす *Nocardia rubra*-cell wall skeleton (N-CWS) 投与の影響ならびに3,4-ベレスピレン(BP)によるウサギの実験的肺癌発生について, 第38回日本癌学会総会, 1979. 9, 東京.

14) 加藤弘巳, 長谷部直子, 鈴木英彦, 藤井 隆, 浅沼克次, 矢野三郎, 金丸哲宏, 北川常廣: 酵素免疫測定法によるゲンタマイシンの測定—血中濃度測定とその臨床利用, 第19回臨床化学シンポジウム, 1979. 9, 大阪.

15) 野間啓造, 中尾皖英, 佐藤文三, 松本圭史, 山村雄一: 中枢神経系における Androgen の作用機構の検討, 第6回神経内分泌シンポジウム, 1979. 10, 東京.

16) 加藤弘巳, 藤井 隆, 鈴木英彦, 浅沼克次, 矢野三郎, 北川常廣: アミノ配糖体系抗生物質の酵素免疫測定法に関する研究, 第26回日本化学療法学会東日本支部総会, 1979. 11, 東京.

17) 加藤弘巳, 藤井 隆, 鈴木英彦, 浅沼克次, 矢野三郎, 北川常廣: 抗生物質の酵素免疫測定法とその臨床的応用, 第1報アミノ配糖体について, 東海・北陸合同内科地方会, 1979. 11, 浜松.

18) 伊藤正己, 飯塚秀文, 円山誓信, 渡辺 武, 岸本忠三, 山村雄一: モノクローナルなマクロファージ細胞株とB-ハイブリッドクローン由来抗体を用いたADCCの解析, 第9回日本免疫学会総会, 1979. 12, 東京.

内 科 学 (2)

教 授	杉 本 恒 明
助 教 授	水 村 泰 治
講 師	浦 岡 忠 夫
講 師	飯 田 博 行
助 手	寺 田 康 人
助 手	高 田 正 信
助 手	余 川 茂 茂
助 手	井 内 和 幸

◇ 著 書

1) 杉本恒明, 浦岡忠夫: Systolic time interval による心機能の評価, 202—212, 町井 潔他編, 心不全の診断と治療, 中外医学社, 1979.

2) 杉本恒明: 心房細動, 心房粗動, 224—225, 今日の治療指針1979年版, 医学書院, 1979.

3) 杉本恒明: 強心薬, 狭心症治療薬, 抗不整脈薬, 150—155, 脈拍の異常, 192—194, 阿部正和,

武内重五郎編, 治療総論, 医学書院, 1979.

4) 紺谷一浩, 杉本恒明: 症例55, 324—327, 症例57・58, 334—344, 日野原重明他編, 心臓病診療の新しいガイドンス, 医学書院, 1979.

5) 杉本恒明: 心筋梗塞の予後, 383—396, 上田英雄編, 心筋梗塞のすべて, 南江堂, 1979.

6) 杉本恒明: 心臓ペースキングの電気生理, 41—52, 岩 喬編, 心臓ペースキング最近の進歩, 人工臓器学会, 1979.

◇ 原 著

1) 杉本恒明, 石川忠夫, 粕野謙介: 心房ペースキングに伴う心房・房室機能の変化, 第2回ペースメーカーに関する公開研究会プロシーディングス 160—162, 1979.

2) 紺谷一浩, 杉本恒明, 稲坂 暢, 浦岡忠夫, 大城康彦, 若狭 豊, 松下重人, 服部 信: 洞不全症候群と高度房室ブロック患者の症状と予後に対するペースメーカー植込みの影響, 呼吸と循環 27(9): 985—990, 1979.

3) Wakasa Y., Ikeda T., Oshiro Y., Numa T. and Sugimoto T.: Beneficial effects of diltiazem on reentrant tachycardia involving A-V conduction., Proceedings of the VIth World Symposium on Cardiac Pacing, Chap. 5, 1—4, 1979.

4) 寺田康人, 稲坂 暢, 杉本恒明: 運動負荷時の血行動態変化に及ぼす体位の影響, 心疾患患者と健常者での検討, 最新医学 34(12): 2727—2730, 1979.

5) 池田孝之, 関 敬信, 浦岡忠夫, 寺田康人, 杉本恒明, 他27名: 循環器疾患に対する CoQ₁₀ (Neuquinon) の多施設による治験成績, 臨床と研究 56(7): 2335—2343, 1979.

6) 木村 登, 村上元孝, 小沢利男, 尾山栄太郎, 杉本恒明, 他31名: β 遮断剤MK-950(Timolol) の労作性狭心症に対する臨床効果, 臨床評価 7(1): 11—26, 1979.

7) 杉本恒明, 板井 勉: 脚枝間リエントリーによるとと思われる心室頻拍の1例, 臨床心臓電気生理 2(2): 49—56, 1979.

8) 粕野謙介, 麻野井英次, 戸島雅宏, 杉本恒明: 広範囲に伝導障害のみられた完全左脚ブロックの1例, 臨床心臓電気生理 2(1): 77—84, 1979.

9) 木田 寛, 水村泰治: 急性び慢性間質性腎炎の臨床的特徴について, 日腎誌 21(8): 852—854, 1979.

10) Nakamoto Y., Kida H. and Mizumura

Y.: Acute eosinophilic interstitial nephritis with bone marrow granulomas., *Clinical Immunology and Immunopathology* 14 : 379-383, 1979.

11) 野村岳而, 宇野伝治, 高島利一, 荒井志郎, 嶋尾正人, 高田正信, 服部 信: Angiotensin II および [Sar¹, Ile⁸] -angiotensin II の腎循環におよぼす影響, *日腎誌* 21(6): 593-600, 1979.

12) 高田正信: 実験的高血圧における塩類利尿にかんする研究, *日腎誌* 21(9): 975-986, 1979.

13) Nomura G., Arai S., Uno D., Shimao M., Takata M., Takabatake T. and Hattori N.: Effect of propranolol on sodium reabsorption and the renal circulation. *Renal Physiology* 1 (3) : 132-139, 1978.

14) 谷 吉雄, 友杉直久, 藤岡正彦, 飯田博行, 木田 寛, 中本 安, 服部 信, 北川正信: 急速進行性糸球体腎炎により死亡した細菌性心内膜炎の1剖検例, *内科* 44(5): 873-876, 1979.

15) 麻野井英次, 稲坂 暢, 沼 哲夫, 高田重男, 大城康彦, 余川 茂, 服部 信, 紘野謙介, 浦岡忠夫: 僧帽弁後尖腱索断裂の部位と大きさのMモード心エコー図による診断—断層図, 病理所見との対比検討, *J. Cardiography* 9(1): 113-122, 1979.

◆ 総 説

1) 杉本恒明: 左室収縮時間測定の現況, *エレクトロニクスの臨床* 7(4): 1-10, 1978.

2) 杉本恒明: 救急医療の実際, 発作性頻拍症, *治療* 61(2): 229-232, 1979.

3) 杉本恒明, 石川忠夫: 異常 His 束心電図, *臨床医* 5(2): 313-317, 1979.

4) 杉本恒明: 心包炎心電図, *内科* 43(4): 617-621, 1979.

5) 寺田康人, 杉本恒明: 肺性心——心電図所見らみたその病態生理, *クリニカ* 6(8): 558-564, 1979.

6) 杉本恒明: 主要疾患の診断と治療, 不整脈, *メジカメントニュース*(909): 13-14, 1979.

7) 水村泰治: 間質性腎炎, *臨床医* 5(6): 902-903, 1979.

8) 水村泰治: 老人における水・電解質代謝異常, *臨床成人病* 9(10): 1773-1780, 1979.

◆ その他

1) 杉本恒明: 頻脈性不整脈の治療——薬物療法を中心として——, 第6回名古屋保健衛生大学心臓血管研究所セミナーテキスト, 1-5, 1979.

2) 杉本恒明: 不整脈の成因と治療薬の作用機序に関する臨床的研究 (三井厚生事業団研究助成報告) *臨床成人病* 9(9): 1663-1664, 1979.

3) 杉本恒明: 心臓の軸偏位, *ドクターサロン* 23(11): 1344-1345, 1979.

4) 杉本恒明: 心室細動の発生と予防に関する研究 (富山県医師会医学学術研究助成報告), *とやま県医報* (757): 10-13, 1979.

◆ 学会報告

1) Sugimoto T., Akiyama M., Uraoka T., Terada Y., Takata M. and Mizumura T.: Problems in the determination of ventricular fibrillation threshold by a train of pulses stimulation. VIIth Asian-Pacific Congress of Cardiology, 1979. 11, Bangkok.

2) Inasaka T., Matsushita S., Matsumura K., Kontani K., Ikeda T., Hattori N. and Sugimoto T.: Significance of altered autonomic mechanisms in the sick sinus syndrome. VIIth Asian-Pacific Congress of Cardiology, 1979. 11, Bangkok.

3) Ikeda T., Wakasa Y., Ohshiro Y., Uraoka T., Inasaka T., Misaki T. and Iwa T.: Echocardiographic prediction of site in the Wolff-Parkinson-White syndrome; A study based on surgical confirmation. VIIth Asian-Pacific Congress of Cardiology, 1979. 11, Bangkok.

4) Fujiki A., Ikeda T., Kubota K., Koyama T., Yokawa S., Inasaka T. and Hattori N.: Electrophysiological effects of diphenylhydantoin on infarcted canine Purkinje fibers. VIIth Asian-Pacific Congress of Cardiology, 1979. 11, Bangkok.

5) Wakasa Y., Ohshiro Y., Numa T. and Sugimoto T.: Beneficial effects of diltiazem on reentrant tachycardia involving A-V conduction. VIth World Symposium on Cardiac Pacing, 1979. 10, Montreal.

6) Takabatake T., Maekawa M., Ohta H., Ohdachi H., Takata M., Arai S., Nomura G. and Hattori N.: NaCl signal for tubuloglomerular feed back (TGF) in hydrogenic rats. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

7) Ohta H., Maekawa M., Takata M., Shimao M., Arai S., Takabatake T., Nomura G. and Hattori N.: Effect of [Sar¹-Ile⁸] angiotensin II and SQ 14,225 in renovascular hypertension---Comparison between unilateral and

bilateral renal artery stenosis. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

8) Tomosugi N., Iida H., Kida H., Saito Y., Tani Y., Abe T., Nakamoto Y. and Hattori N.: Measurement of circulating immune Complexes in renal diseases by four different methods. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

9) Tani Y., Abe T., Kida H., Saito Y., Tomosugi N., Iida H., Nakamoto Y. and Hattori N.: The significance of B lymphocyte subset pattern in primary renal diseases. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

10) Kida H., Tani Y., Abe T., Saito Y., Tomosugi N., Iida H., Nakamoto Y. and Hattori N.: Etiological and clinical Significance of serum immunoglobulin E and surface immunoglobulin E positive lymphocyte in minimal change nephrotic syndrome. Ist Asian-Pacific Congress of Nephrology, 1979. 10, Tokyo.

内 科 学 (3)

教 授	佐々木	博
助 教	井 上	恭 一
講 師	田 中	三 千 雄
講 師	中 野	護
助 手	小 島	隆
助 手	市 田	隆 文
助 手	斎 藤	清 二
文部技官	桑 原	芳 弘

◆ 研究概要

1) 肝内胆汁うつ滞：ヒト急性肝内胆汁うつ滞の成因，病理組織像，臨床の特徴について検討し，実験モデルとしてはラットにリトコール酸持続投与時の微細構造を検索した。慢性肝内胆汁うつ滞については，原発性胆汁性肝硬変の病態，とくに銅沈着との関連について検討した。

2) B型肝炎ウイルス(HBV)：HBs 抗原陽性肝疾患患者の肝細胞内HBVの局在を酵素抗体法を用いて，光顕，電顕的に検索し，とくに肝細胞膜表面のHBs抗原分布に関する知見を得た。

3) アルコール性肝障害：従来よりのアルコール性肝障害に関する臨床病理学的研究を継続したが，

その中でもアルコール性肝障害に特徴的所見と考えられるアルコール硝子体の電顕像について，原発性肝癌切除標本にみられた同様の硝子体を検索し，Filament様 構造物を確認した。

4) 肝疾患の治療：劇症肝炎に肝補助装置を用いる治療を行い，血漿アミノ酸動態との関連においてその効果を検討した。また慢性肝炎，亜急性肝炎に対するステロイド剤の効果を機能検査，肝組織像，転帰の面より明らかにした。

5) 消化管における消化吸収の機序：内視鏡および内視鏡下小腸生検により，消化管における脂肪の消化吸収機序を明らかにした。

◆ 著 書

1) 佐々木 博，川村 正，西 正与，小島 隆：肝内胆管系上皮，細胞の微細構造，33-43，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

2) 佐々木 博，佐藤英司，市田文弘：急性肝内胆汁うつ滞，208-225，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

3) 松下 寛，佐々木 博，市田文弘，白木和夫：本邦における肝内胆汁うつ滞の疫学，181-199，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

4) 井上恭一，佐々木 博，市田文弘：若年性小葉間胆管形成不全症，282-293，市田文弘，織田敏次，佐々木 博，山中正己編，肝内胆汁うつ滞——基礎と臨床，中外医学社，1979。

5) 佐々木 博，上村朝輝，長山正四郎，吉川明，市田文弘：HBおよびHA抗原，137-152，常岡健二，亀田治男編，消化器病疾患最近の進歩 あすへの内科展望，78-79，金原出版，1979。

6) 佐々木 博，川村 正，市田文弘：胆汁うつ滞，130-161，織田敏次，阿部 裕，中川昌一，滝島 任，堀内淑彦，鎮目和夫，古川俊之，祖父江逸郎，内野治人，尾前照雄編，内科学セミナーLGI ウイルス性肝炎，永井書店，1979。

7) 佐々木 博，井上恭一，市田文弘：薬剤アレルギーによる肝障害の臨床，135-145，日本医師会編，日本医師会医学講座，金原出版，1979。

8) 鈴木 茂，田中三千雄(共著)，竹本忠良(監修)：色素内視鏡と実体顕微鏡検査法(単行本)，38-117，医学図書出版，1979。

◆ 原 著

1) 佐々木 博：劇症肝炎の病態と対策，新潟医学会雑誌 93(9)：633-639，1979。